

まえざわ

前沢地区

(富山県立山町)

- 計 画 期 間 平成 19 年度～平成 23 年度
- 面 積 268.2 h a
- 交付対象事業費 2,226 百万円
- 町人口 25,021 人 (地区内人口 5,253 人)

ポイント 中心市街地の活性化に向けたアクセス機能の向上と交流等施設の整備

地区概要 中心市街地と鉄道沿線により構成している。鉄道は、町を縦走し立山黒部アルペンルートへ通じるもので、地域の住民や観光客が気軽に利用できる。

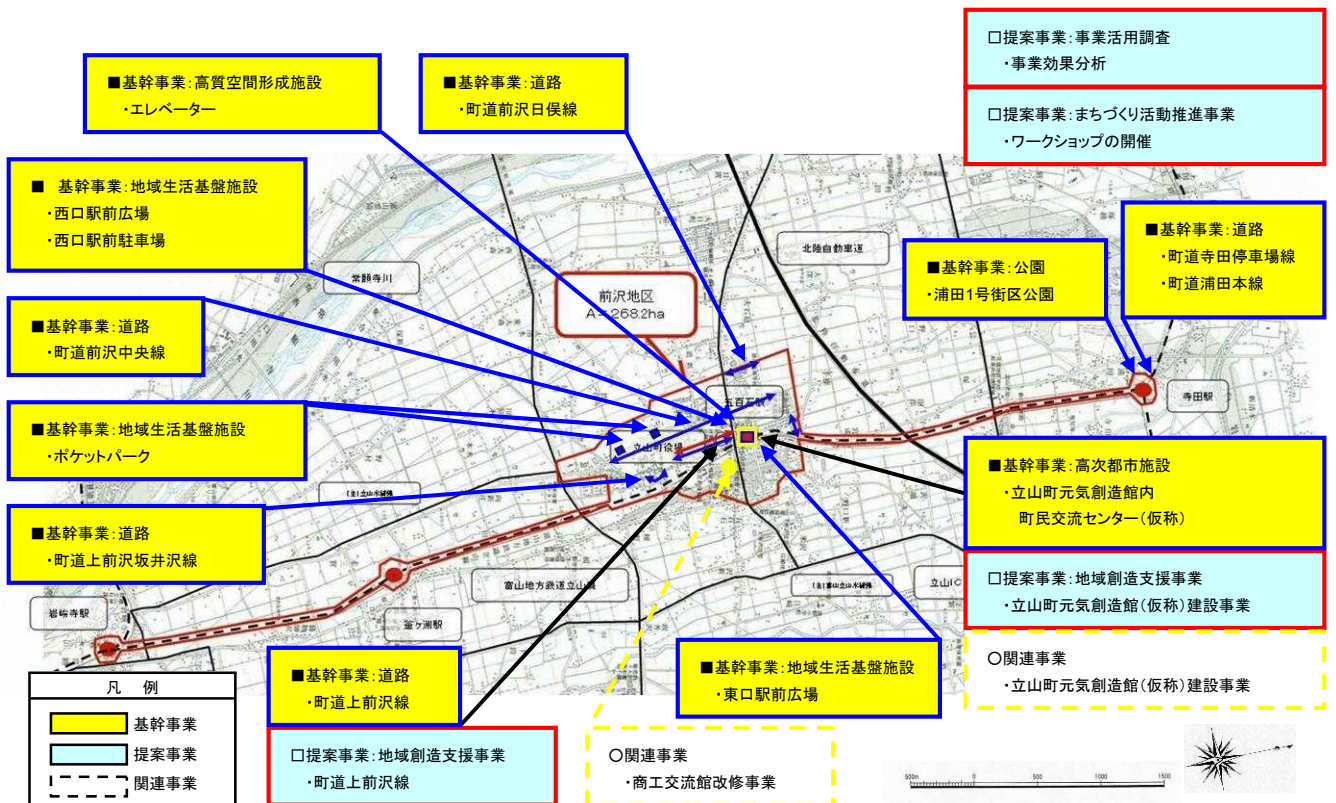
目 標 「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らすことができる都市の現実」

指 標 町民誰もが元気で創造的に生きがいのある生活を送ることができることを目指し、保健センターと交流施設の利用者数、図書貸出件数を指標に設定した。

図書館の図書貸出件数	109,000 件/年 (H17) → 120,000 件/年 (H23)
保健センターの利用者数	12,000 人/年 (H17) → 13,000 人/年 (H23)
交流施設の利用者数	53,000 人/年 (H17) → 58,000 人/年 (H23)

事業内容 基幹事業 (1,641 百万円) → 道路 (町道整備 L=1,140m、道路照明 9 基)、ポケットパーク 2 箇所、駅前広場整備、エレベーター 1 箇所、立山町元気創造館 (仮称)

提案事業 (585 百万円) → 立山町元気創造館 (仮称)、ワークショップ、事業効果分析 等



地区の現況と課題

本地区は、中心市街地と富山地方鉄道立山線の寺田駅から岩崎寺駅までの沿線である。地区内では、商店街等へのアクセス道路が一部未整備の状態で、若者の流出や人口の高齢化が進むとともに、商店街の活力や賑わいが著しく低下し、地域コミュニティも弱体化しつつある。また、鉄道の乗降人員は昭和40年頃と比べると2割程度に減少するなど、高齢者・学生等の交通弱者にとって必要な公共交通機関の利便性の低下が危惧される。このため、中心市街地の再生、地域貢献に資する活動の誘発、地域住民の健康・元気づくりが課題となる。



▲人通りのない商店街

提案事業の特徴

立山町元気創造館（仮称）整備

中心市街地の活性化や町民等の交流を目指すとともに、地区内の老朽化又は狭隘化している保健センター、社会福祉協議会施設、図書館等の機能を一箇所に集め、効率的で効果的な行政サービスを提供するために、町民交流センター（基幹事業）を導入した立山町元気創造館（仮称）を整備することとしている。

この複合施設に図書館等を組込むことにより、町民の主体的・創造的な生涯学習だけでなく、町民の活発な交流の促進を図る。



▲完成した町道前沢中央線

計画策定プロセス

次の委員会等を踏まえ、都市計画、企画政策、健康福祉の各担当課が緊密に連携し、本都市再生整備計画を策定した。

保健福祉総合センター基本構想策定委員会

町内有識者等7名から構成する委員会を組織し、都市再生整備計画の目玉である保健センター、図書館、町民交流センター等の複合施設の基本構想を策定した。

富山地方鉄道立山線の活性化に向けた地域活動等との連携推進検討会

国・県・町の職員、鉄道事業者、地域住民、観光協会、商工会、鉄道利用者等17名から構成する検討会において、富山地方鉄道立山線の活性化に向けた鉄道と町内の地域活動、商業活動、観光活動との連携施策等について活発な議論が行われた。



▲富山地方鉄道立山線「寺田駅」



▲検討会議の様子